令和４年度　地域包括支援センターの認知症施策に関する取組

資料２

	目　標	具体的な取り組み	実績	課題・今後の方向性
第一包括	認知症になっても、最後まで住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる地域づくりを目指します。	若い世代や職域サポーターを養成する。	福祉教育推進連絡会に出席し、管内の小中学校に認知症サポーター養成講座の開催を打診した。 現在、二小と神座小で計２回実施済み。 企業には講座の案内と申込書を送付したが、特に申し込みや問い合わせはない。	開催を打診しているが、長年実施につながっていない小中学校がある。 引き続きキッズサポーターや職域サポーターの養成に力を入れていきたい。
		認知症の人が安全に外出できる地域の見守り体制づくりや、ＩＣＴを活用した捜索システムの普及を図る。	みまもりあいアプリについての講話や、アプリを用いた捜索模擬訓練を計画していたが、実施できていない。	実施が難しいため、希望があった場合に再検討する。
		認知症の人やその家族の社会参加を支援していく。	・既存のオレンジカフェとの定期訪問や交流会を計画していたが、管内のカフェが休止状態のため、電話で状況確認をしている。 ・包括主催のオンラインオレンジカフェの開催を啓作していたが、健康サポート薬局主催のオンラインオレンジカフェに参加する形に変更した。	・各オレンジカフェの再開時にスムーズに連携が図れるよう、引き続き情報交換をしていく。 ・今後も調剤薬局と連携し、オンラインオレンジカフェを実施していく。

	目　標	具体的な取り組み	実績	課題・今後の方向性
第二包括	認知用になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるサポート体制を整備をしていきます。	チームオレンジ「きずな」の活動として企業と連携してオンラインで居場所や認知症カフェを繋ぎ情報発信を行う。	●健康医療薬局３か所と認知症カフェをオンラインで繋ぐことで、離れていてもいろいろな情報やお話を聞くことができた。 ●きずなのメンバーには地域の活動のお手伝いなどに参加させていただいている。	●きずなの取り組みがきちんと地域の活動に周知されていないことで、誤解を生んでしまった。 ●きちんとチームオレンジきずなの活動の趣旨を伝え、活動参加をさせていただけるところを作っていく。
		徘徊高齢者の捜索についての体制づくりを考える	●昨年、徘徊高齢者が亡くなると言ったことがあったため、話し合いの機会をもつ予定であったが、いまだ実施できていない。	●コロナ禍で集まっての話し合いが持てていない。どの範囲まで広げた話し合いが必要かが課題。 ●今後の方針としては、一町内会または、小学校区ぐらいの範囲で話し合いの機会を持っていく。
		認知症を正しく理解してもらうために、教育機関や企業に働きかけ、認知症サポーター養成講座の案内を配布するとともに年４回実施する	●第四小学校、大津小学校にて認知症サポーター養成講座を実施した。 （第二中学校の１年生にも2/2に行う予定）	●コロナが蔓延してくると、小学校などは開催が難しいことがある。 ●学校の場合はクラス単位やリモート開催などコロナ禍でも開催できる方法を模索する。 ●金融機関やスーパーなどへの働きかけもしていく。

	目　標	具体的な取り組み	実績	課題・今後の方向性
六合包括	認知症を本人、家族、地域住民ともに受け入れることができる意識作りをしていく。	認知症の方が地域を見守る応援者として活動できる機会を作る。	①六小　六合東学童　民間学童　居場所で認サポを開催1月に六合中2月にＧＨで開催予定 ②チームオレンジ連絡会を開催5月12月開催	学校での認サポが再開できたので、次年度以降も継続できるようにしていく。
		地域住民と協働し、認知症の方や支える方が気軽に集まったりできる場所を紹介、提供する。	①１月に岸町カフェでOTを講師で依頼し、ウエルシア東町で看護師が講師で開催した。②初期集中に連携することができた。 ③8月にカフェを開催した。	六合で活動する専門職に認カフェに参加してもらい、認地症を地域で支える体制を整える
初倉包括	認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるようチームオレンジが主体的に活動できるよう支援します。	地域住民が関心を持って参加できる講座を企画し、地域に出向き開催する	①国保年金課と連携し認知症相談を含む健康講座を開催:3回 ②チームオレンジによるはつくらこども食堂での絵本読み聞かせ：月1回	①地域住民の認知症予防への関心は高いが、「認知症になっても安心な地域」という視点での講座も開催数を増やしていきたい。②認知症の有無を問わず高齢者の参加が増え、認知症カフェとしての機能が備わってきている。こども食堂開催団体と連携しカフェ機能も充実をさせていきたい。
		若い世代に認知症の理解を広める	認知症サポーター養成講座の開催 初倉小学校4年生3クラス・放課後児童クラブ 初倉南小学校4年生2クラス・放課後児童クラブ 初倉中学校2年生(3月開催決定)	今年度は4年生以下への開催ができた。学年が小さくても、小さいになりに学び取ってもらえることが実感できた。様々な年齢、対象に対応できるよう工夫をしていきたい。
		通い慣れた"ふれあい"への参加が安心して継続できるようにする。	8/25初倉地区高齢者ふれあいサロン(全9か所)代表者を対象とした認知症サポーター養成講座を開催11名受講	認知症への理解は、ふれあいサロンの継続に欠かせない要素の1つであると考えるため、サロンスタッフにも実施していきたい。

	目　標	具体的な取り組み	実績	課題・今後の方向性
金谷包括	認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせる地域づくりを目指していきます	様々な世代に認知症の基礎知識と理解を広げ地域で見守る応援者として活動する場を広げいく	５回実施（①企業：西東石油従業員、②地域：しまトレ二軒家、キッズサポーター：③五和小４年生・④金谷小放課後児童クラブ・⑤金谷中学校３年生）	今年度は福祉教諭担当教員と連絡会で顔を合わせる機会があり数年ぶりに学校で認知症サポーター養成講座が開催できた。今後毎年、小中学校で定期的に開催できるよう福祉教育担当教員と連携をとっていく。
		チームオレンジ茶っきりの活動の場を広げ、認知症の方も参加できる場所を作っていく	①チーム茶っきり連絡会：３回実施②チーム茶っきりのPRチラシを作成した。活用方法は来年度検討する③サロン＆茶っきりカフェの拡大：志戸呂ふれあいサロンで１回開催	チーム茶っきりの活動の場を広げていけるよう今後もメンバーと話し合っていく。認知症本人や介護者のニーズ把握もしていきたい。
川根包括	認知症の理解を深めるための周知・啓発活動を行い、多世代で支え合う地域づくりを推進します。	様々な世代に認知症に対する正しい知識と理解を広げ、地域の担い手づくりに取り組む。	認知症サポーター養成講座（目標年４回）：実施2回 認知症予防講座（目標年３回）：実施1回	包括支援センターの運営法人が４月に変わったこと、キャラバンメイト養成研修の未受講であったため、年内での目標実施回数に達することができなかった。現在は包括職員キャラバンメイトの資格を持っており、認知症予防講座は１月以降予定しているため、今後取り組みを行っていく。
		認知症の方を地域で支える体制づくりをチームオレンジ、認知症キャラバンメイト、認知症サポーターと共に行う。	認知症キャラバンメイト連絡会（目標年１回）：未開催 チームオレンジちゃのみ定例会（目標月１回））：２回（６月10月）定例会としては開催していないが随時連絡は行っている。	新型コロナウイルスの蔓延もあり定期的な開催までには至っていない。チームオレンジとは小学校での認知症サポーター養成講座の実施の協力や居場所活動の場への訪問でチームオレンジのメンバーと連絡を行っている。
		認知症カフェや運営推進会議にて、認知症に関する相談支援や課題把握を行う。	・駅前お茶のみ会（認知症カフェ）：毎月１回 ・運営推進会議：年１２回 共に開催時には参加している。（台風１５号被災、コロナ蔓延時は中止）	新型コロナウイルスの蔓延と台風１５号の被災により中止することがあったが開催時に参加していた。今後は認知症カフェへの協力に力を入れていく。

実績は令和4年1月末までの件数